

生活情報科通信 3



播州織博覧会 (播州織ファッションショー) ▶▶▶ 5月26日(日)

2024年5月28日発行



・初めてファッションショーを見て、本当に感動しました。先輩のウエディングドレスをみて、2年後には自分もこんなにすごいものが作れるのかと楽しみになりました。同級生の歩き方やポーズを見て、短時間で急に決まった子もいたのにみんな上手ですごいなと思いました。

・ショーの前に私が緊張していたら、先輩が背中を押してくださったり、フォーメーションが分からないところがあったら、忙しい中でも時間を作って教えてくださいました。着替えにくそうな子がいたら誰よりも早く手伝って、見えないところでいろいろ配慮し、私たちのために動いてくださり、そんなたくさんの人の助けがあって成り立っていることに、改めて気づかされました。そういう周りの人の良い所をこれからの活動でもたくさん知って、私もそれを伝えていけるような人でありたいと思います。

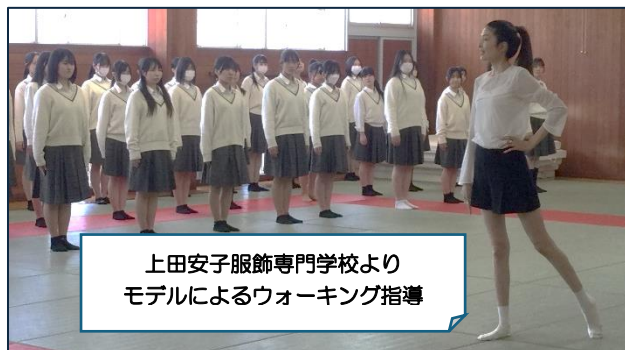
・播博を終えて、改めて生活情報科の魅力を知ることができました。今回の服飾のシーンは何回見ても飽きないくらい衣装やフォーメーション、音楽に工夫があり、完成度が高く感動しました。ウォーキング練習や衣装の魅せ方など他校では経験できない、生情だからこそだと実感しました。

・文化祭では自分が納得いくものを作って、見ている人が飽

きないような、更にレベルの高い舞台を作れるように頑張りたいです。

・姿勢や歩き方のくせ、笑顔が少しずつ良くなって、経験を積むことで自信となるものが一つひとつ増えていくことが嬉しいです。文化祭では、自分の衣装をどう魅せるのか、何を伝えたいのか明確にし、細かい所からも播州織のすばらしさを伝えられるようなファッションショーにしたいと思いました。

・古民家アトリエから衣装を着て、ファッションショーPRのためにティッシュを配りました。立ち止まって優しく話を聞いてくださったり、頑張ってるね！や可愛いね！などたくさん声をかけていただきました。改めてたくさんの方が応援してくださっているのだと感ずることができました。



上田安子服飾専門学校より
モデルによるウォーキング指導



😊😊 古民家アトリエ (ワークショップ)

・今日アトリエに参加して感じたのは、来られた方はかなり関心を持ってものづくりをされているということです。こちらに引っ越してきて1年目で初めて参加された方は、「これは来年も来るしかないな」と。「アトリエは毎月行っていますよ。」と言うと、驚いておられました。もっと情報発信すれば、多くの方に播州織を通して繋がっていきけると思いました。

・ワークショップに参加して、一番驚いたことは、来られた人同士初対面なのに、お互いの作品を褒めあい、楽しく雑談されていたことです。私も積極的に挨拶を心がけ、お客さんと話をしていくうちに、お客さんと私の一対一から、アトリエ全体に会話が広がっていったとても楽しかったです。

・アンケートには、応援メッセージや楽しかったことが伝わる回答ばかりで、とても嬉しかったです。

・笑顔で対応することと、敬語を使って相手が不快に感じないように心掛けました。お客さんも笑顔で「楽しかった」「こんなのできた」と話しかけてもらい、和やかな会話をすることができました。自分にも役立つことがたくさんあり、学ぶことができました。人見知りを少しずつ克服し、今ではお客さんに話しかけていただけるほどに成長し、自分でも驚いています。生情でよかったですと思いました。

・1年生は初めてにも関わらず、周りを見てしっかり行動できていました。



・今回の播博では、人手も材料も準備不足が目立ち、新しいお客さんが来られても“私が担当します”という人がいなくて、結局3年生の一部が何人も掛け持ちして教えていたので、回転効率が悪く、遠くからわざわざ来ているお客さんに、申し訳ないと思った。特に待ち時間が発生してしまったのは、オーガンジーのヨーヨーキルトでビーズをつける機械が2つしかなかったことと、使い方が分からない子がいたこと、ビーズがつけにくかったことなどが重なったからだ。待っている間、手持無沙汰だったし、先にリボンを選んでもらおうとしてもリボンが間に合っておらず、すべて無くなったら追加するというギリギリのスタイルだったのが、一番の反省点だと思う。部活動で忙しい中、説明だけでも聞いてくる子もいたのにも関わらず、連絡もなく集まりに参加しない子もいて、もうそこから差ができていたと思う。もっとみんなで作るイベントという自覚を持ち、準備を念入りに行うことが大切だと思った。

・今まで見てきた先輩方の姿を思い出し、積極的に1年生に話しかけコミュニケーションを取れるように意識しました。接客は明るくいつもより声のトーンを高くして行ったところ、「元気だね!」「頑張ってるね!」と声をかけていただき、私たちも気持ちよく楽しく動くことができました。

・初めはファッションショーに出たいという思いがありましたが、アトリエやカフェで地域の方と接するうちに、生活情報科の大切な活動だと再確認できました。

・海外の方も来てくださって、アンケートの内容を英語で説明できたのが嬉しかったのですが、もっと英語で話せるようになりたいと思いました。

・カフェに来られた方に、生活情報科に興味を持ってくださっている方がおられ、コラボしてみたいと言われ、とても嬉しかったです。



・“こんにちは”とたくさんの人に呼びかけ、展示を見て頂いたり、明るく楽しくジュースの販売を合いました。先輩は展示作品の説明をしながら、商品の説明に入り、すごくうまくて見習いたと思いました。

・コーヒーの入れるのに手こずっていても、ずっと笑顔で見守ってくださる方がたくさんいて、皆さん優しく嬉しかったです。

・「生活情報科の活動すごいね!」「ファッションショーよかったですよ」という言葉がすごくうれしく、心温まる一日になりました。